

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[42]歳、勤続年数[23]年、現場経験年数[23]年、階級[消防司令補] 同様の活動[初めて]、任務[車長]
○当事者B	年齢[26]歳、勤続年数[7]年、現場経験年数[7]年、階級[消防副士長] 同様の活動[初めて]、任務[機関員]
○当事者C	年齢[26]歳、勤続年数[4]年、現場経験年数[4]年、階級[消防士] 同様の活動[初めて]、任務[隊員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生時の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	救急隊が	現場を捜索中	捜査範囲(2km×20m)
経過2	救急車が	悪路(海砂やゴミ)にタイヤが半分埋まってスタックし、走行不能となったもの。	
経過3	当事者A	現場検索のため、必要最小の資機材を携行して先行	
経過4	当事者B・C	車両周囲の砂等の除去	
経過5	当事者B・C	除去中、支援隊と合流	
経過6	当事者B・C	支援隊と協力し、除去継続	
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならぬという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった(寒かった)。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	はい

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	はい

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	はい

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

119通報受信時における情報収集等を含め、災害現場の特定を行うことは必要不可欠であるものの、特定に時間を要する事案の場合は、速やかな判断により増強を行うよう態勢を整えた。

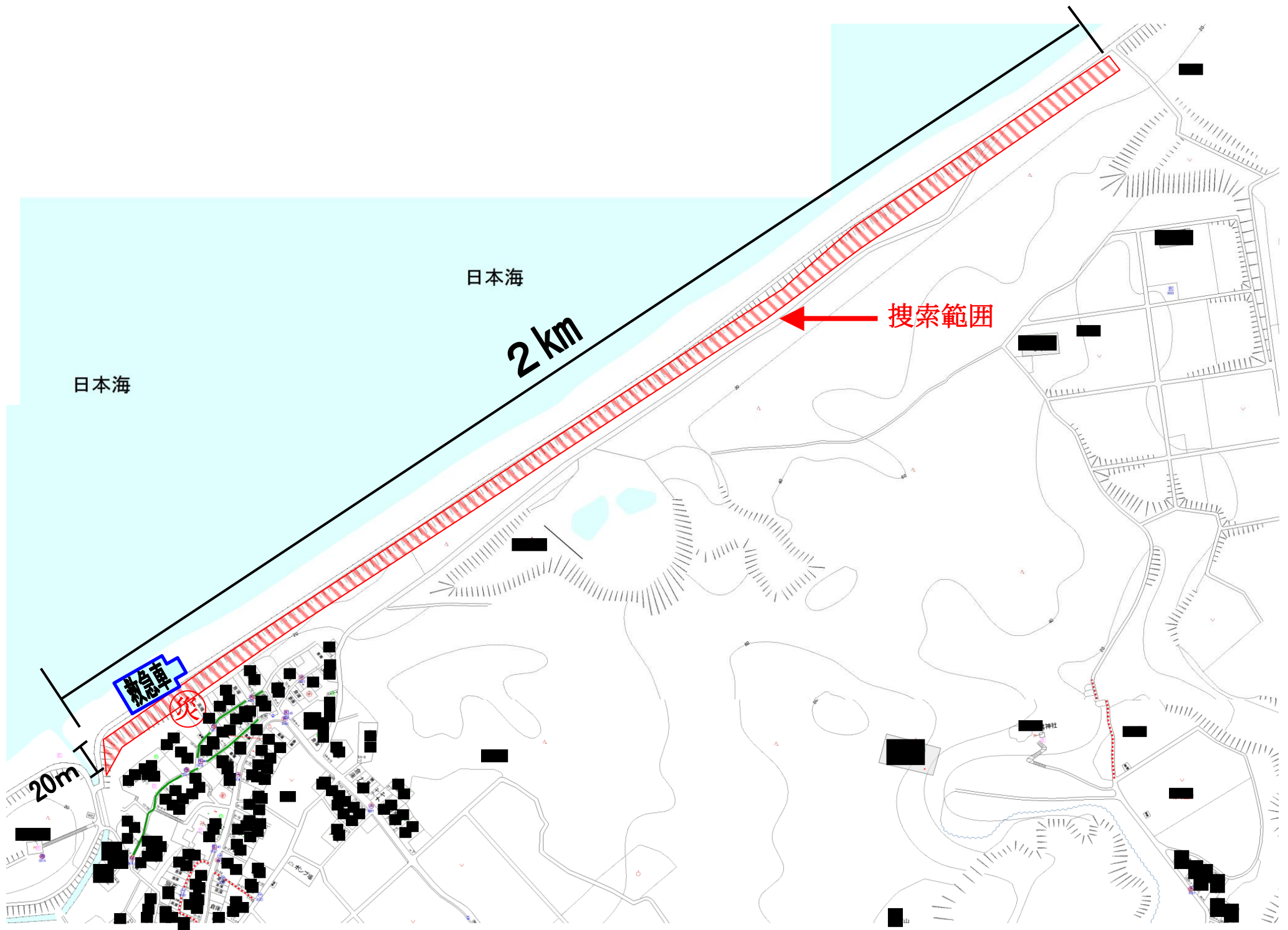
○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

季節や環境、当日の気象状況などを考慮して活動しなければならない。
気象状況の影響を受けやすいと思われる場所は、常日頃から外部出向の機会を捉えて、十分に把握するよう心掛けるようになった。

○指揮・情報伝達の対策について

今回の事案を踏まえ、現場活動にあたり少しでも有益と思われる情報や知識の職員間での共有やフィードバック等、また通信指令課との連携などの再強化を行った。



日本海

日本海

2 km

搜索範囲

船

20m

神社